

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所よつば		
○保護者評価実施期間	令和6年9月24日		～ 令和6年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数) 34名
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが支援室等のスペースの関係が適切であり、それぞれの活動に対応している	子どもの発達やその子の課題、目標を検討して各支援室を使うようにしている。子どもの課題、目標によって地域の公民館を利用して対応したり、地域のお店に買い物に行く活動、時間を設定しながら取り組んでいること。	子どもの発達や課題、目標によっては子ども同士のつながり作りながら、更に支援室のスペースや使い方を有意義にしていこう。
2	子どもの発達に合わせたプログラムを立案できていること	子どもの発達や課題、目標によって、小集団グループでの活動、一人での活動プログラムに取り組んでいる。	その子の興味関心、取り組めることを重視することで活動の質の向上につなげることができる。
3	子どもの状態に対して、職員を配置できていること	子どもの発達や特性によって、集団活動に参加が難しいときは、その子が獲得できている作業や活動を個別に対応している。	子どもの特性だけでなく、一人ひとりに対して課題や目標に応じて対応していくことをしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育とのさらなる連携を図り、子どもの支援体制をつくっていくこと。	就学時からの移行で、子どもの発達を促すために必要な情報を共有すること。社会性を身に付けていく上で、どのような経験をしてきたか、行動に対しての特性を理解しておくこと。子どもの要求に対して活動を取り組むようしているが、実際には行動が定着していなかったり、活動内容が難しかったりすることがある。	保護者との信頼関係を作り、保育、教育機関との連携を図っていくようにする(会議をする機会を設ける)。
2	支援計画が職員間に共有されていることとされていないことがある。	担当者会議を行ったときに、子どもの課題と取り組んでいる活動内容が一致しているかのねらいや振り返りにつながないことがある。	担当者会議で子どもの課題、その日に行う活動のねらいを明確にして話し合うこと(職員がわかりやすいように教示する)。
3	業務改善を進めるための話し合いや振り返りについて共有できていないことがある。	子どもが成長することで、心身の状態や気持ちに変化が見られ、活動内容や子どもの取り組む内容が変わり、準備するものが変更したとき。	日々の業務の中で、子どもの状態や活動について情報共有する時間を設ける。職員会議で、業務内容について再度確認すること。